

■ 坂出郵船組(坂出)130周年

塩商い原点、荷役が主力



船舶荷物の積み下ろしを主力事業に130年。坂出の塩を運ぶために創業して以降、原木や鋼材など取り扱う貨物は変遷してきたが、変わらず地域産業の発展に努めている。

1889年、創業者の初代津島惣平が北海道を中心に塩の商いを始めるため、坂出港運組を組織。日本郵船の特約店に選定されたのを受けて1924年に現社名に改称した。

これまでの主な取扱品目は塩や住宅向けの原木、造船用の鋼材、コー

- ・1889(明治22)年 坂出港運組設立
- ・1921(大正10)年 日本郵船の特約代理店に
- ・1924(大正13)年 現社名に改称
- ・1936(昭和11)年 営業倉庫を建設、倉庫業を始める
- ・1958(昭和33)年 倉庫部門を分離し、坂出郵船組倉庫を設立

綾政彦社長は「『地域の発展と企業価値の最大化の実現』を経営理念に掲げ、社員一同、まい進していきたい」と抱負を語る。

▼本社所在地：坂出市入船町1-6-14
 ▼資本金：1600万円
 ▼従業員数：60人

▼売上高：7億8000万円(2018年5月期)
 ▼経常利益：—

飛躍

かがわの周年企業

■ ヨークス(東かがわ)70周年



日本銀行 審議 県金融経済懇談会後に会見する日銀の片岡審議委員—高松市内

日銀の片岡剛土審議委員は27日、高松市内で開かれた県金融経済懇談会で講演し、日銀が掲げる2%の物価上昇目標について「現時点で2%に向けて高まるという蓋然性は低く、勢いも強まっている」と述べ、

日銀・片岡審議委員 高松で講演

「さらなる緩和必要」

達成は困難との見方を示した。目標と現実には隔たりがあるとし、さらなる金融緩和が必要だと主張した。

片岡氏は物価が上がらない理由として、需要と供給の差である「需給ギャップ」の拡大基調が「今後の経済

動向を踏まえると弱まる可能性がある」といふことを挙げた。

懇談会には、浜田知事や県内の経済団体、金融機関の代表者ら13人が出席。片岡氏は終了後の会見で、県内景気の現状について「企業収益が高水準で推移する中、設備投資が増加し、個人消費も着実に持ち直している」との見解を示し、先行きも「保護主義的な動きの影響は限定的と聞いており、基本的に回復を続けていくのではないかと期待を寄せた。

また、4月開幕の「瀬戸内国際芸術祭2019」などを挙げながら県内観光にも触れ、「豊富な地域資源を生かす取り組みが進められており、外国人観光客も

さよなら「ひやく号」

琴電 来月3日にイベント

高松琴平電気鉄道の開業100周年を記念して2019年から琴平線を走っている「ひやく号」が、3月6日に運行を終了する。同社は同3日午前10時から高松市の琴電仏生山駅東側車場などで別れイベントを開く。臨時列車の運行や撮影会などを開催する。

ひやく号は「飛躍」と「00」を掛けて命名された栗林公園や金刀比羅宮など

伸びている」と評価。ホテルの建設など受け入れ体制も整ってきているとした上で、「少子高齢化が進む中で成長するためには企業などさまざまな主体がチャレンジ精神を発揮し、前向きな取り組みを続けていくことが不可欠」と指摘した。

4月に終 持ち株会

トヨタ自動車 香川 香川 店を展開して タ自動車(高

居住

経済 KAGAWA

「丸亀町版CCRC」の仕組みづくりを進めてきた。民間主導で取り組むのは珍しいという。

5施設のうち、まよ2017年3月に健康管理施設



高齢者が安心して暮らせる環境をつくることと丸亀町版CCRCの整備された施設(写真は「ラッシュ」)